

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社 ミキハウス
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の思いを汲み取ったうえで、その方の個性や心身の状況などを考慮し、出来るだけその人らしく生活できるよう、一人ひとりのペースに合わせた支援・ケアに努めている。不安や心配事を最小限にするために、一人ひとりの生活リズムを大事にすることで、笑顔の絶えない穏やかな生活を送って頂いていることなどが、その例である。また、自治会に加入し地域の行事に参加することで、広く当施設の存在を認識して頂き、災害時など緊急事態にも地域の方々に協力して頂ける環境づくりを行っている。一方、職員教育には施設側より全面的にバックアップし、各方面の研修に積極的に参加できる環境をつくり、各個人のレベルアップに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の利用者の平均年齢は高く、長期の利用者も多い。丁寧な支援が行われていることであり、利用者の顔が穏やかであることから確認することができる。利用者の高齢化に伴い、どうしても医療的支援が多くなる中、地域の社会資源を熟知している看護師でもある管理者は事業所として利用者が最良のサービスを選択できるようにしている。地域全体で利用者を支えようとする仕組みができています。開設10年の節目を迎え、管理者は新たに「利用者と共に事業所から地域に働きかけ、地域を賑やかにする」という目標を立てている。アクティブな活動は利用者の生きがいづくりにもつながり、とても楽しみのある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名	グループホーム しおさい
(ユニット名)	ユニット1
記入者(管理者)	
氏名	青野 洋子
評価完了日	平成 25 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) スタッフ全員の話し合いのもと決定し、事業所独自の理念に基づき、管理者並びに職員一同業務にあたっている。なお、いつでも確認できるよう事務所に掲示している。</p> <p>(外部評価) 管理者は介護業務の基盤づくりが理念であることを良く理解している。言葉のみを覚えるのではなく考え方を理解させるため、新人職員を研修には敢えて「理念」という言葉を使っていない。研修後に、言葉の奥行きを深めるために「理念」を説明して、今では職員間に理念の考え方が浸透している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 出来るだけ多くの利用者に地域の行事に参加して頂けるよう、環境づくりに努めている。また、絵手紙やマンドリン演奏などを通して、地域のボランティアの方々と交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 工業団地に隣接して開発された場所に位置するため、日常的に近隣住民との付き合いは難しい。地域と利用者の生活をつなげていくため、利用者と一緒に地域の季節行事に参加したり、事業所でイベントを開催したりしている。徐々にその輪は大きくなっており、地域ボランティアが事業所で催し物を開くまでに育っている。</p>	<p>管理者は、これまでは地域とは「交流」をしており、「つきあい」の域までは達していないとの思いがある。既存の行事に参加するだけでなく、事業所からの働きかけ、新たな関わりを創ることを模索している。事業所と利用者から近隣住民に積極的に働きかけ、相互の協力関係づくりや地域とのつながりが深まるような取組みを期待したい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々には、運営推進会議を通して認知症に関する勉強会に参加して頂くことで、さらなる認知症に対する理解や、支援の方法に対してなど、アドバイスをを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、利用者の近況報告や研修内容の報 告、行事報告など、その内容をよく吟味した上で行ってい る。広く地域住民の方々に参加を募り、情報を交換し合う ことにより、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、介護相談員、 市担当者等の参加を得て開催している。会議録からは参加 者に事業所を理解してもらいたいとの管理者の考えを読み 取ることができる。また、地域活動を幅広く行っている参 加者が多いため、利用者により有用な情報を収集したいとの 考えもあり、事業所の問題等も包み隠さず相談している。出 された意見を受け入れる事業所の姿勢が参加者に伝わって おり、率直な意見が聞ける会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 行政とは運営推進会議などを通じ、情報交換を行ったり、 アドバイスを頂いたりしている。また、介護における困難 事例やわからないことなどについて相談している。	
			(外部評価) 管理者は市担当者等を良き相談先として真摯な姿勢で対応 している。最新の介護保険制度の情報をもったり、新し い介護方法を学んだりするなど、管理者自身の知識に驕る ことなく、行政と連絡を密にしている。サービスの質の向 上のために、市担当者の意見を取り入れている姿勢は評価 することができる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間時は防犯として施錠を行ってはいるが、それ以外では 見守りを重視し、身体拘束をしないケアを実践している。	
			(外部評価) キッチンからユニット全体を見渡すことができ、職員は調 理しながら利用者を見守ることができる。利用者や職員の 双方に安心感があり、利用者の落ち着きのある様子から 伺える。事業所では身体拘束をする原因が利用者の不安感 からくるものが多いと考えており、身体拘束ゼロになるに は安心できる生活の提供が不可欠で、特に職員の見守りに 力を入れている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に職員同士が、日常生活において虐待が起きないようにチェックし合い、その防止に努めている。また、外部研修やスタッフ会などを通して、全職員が高齢者虐待防止法などについて学ぶ機会を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員共に必要とされる方々に対し活用できるよう、外部研修やスタッフ会などを通して日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深めるための支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族の思いを十分に理解したうえで、契約にあたっての不安や疑問などを解消して頂けるように、しっかりと説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議において、利用者の家族の方に参加して頂けるようお声かけし、参加して頂いた際には要望や意見などを頂戴している。また、介護相談員をお招きし、利用者との何気ない会話の中にその思いを汲み取ることができるよう努めている。 (外部評価) 管理者は長期の利用者になると、家族等から意見を聞くことができにくくなっている。その対策として、家族等に事業所から相談を持ちかけることで、対話を増やすように努めている。管理者の姿を見て職員は、家族等の話を傾聴することの重要性を知り、家族等との対話に力を入れている。職員教育の面でも有用な取組みと言える。また、利用者からは介護相談員との話の中から要望を聞くこともある。出された意見は反映するように努めている。	長期の利用者となると、職員との対話時間が長くなり、生活歴の聞き取りに力を入れている等の理由から、職員の情報量が家族等を上回っている場合も多く、さらに利用者の意見や要望を反映できるような取組みを期待したい。また、家族等から話しやすくなるような取組みに加え、家族と共に利用者の生活を支えるという関係を構築することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 一月に3回あるスタッフ会で、管理者は職員が抱えているケアに対する意見や提案、改善点などを把握し、その解決や状況の改善などに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員と介護現場での話し合いの時間を大切にしている。利用者への具体的なサービス提供の方法を検討する場合は、管理者は職員間で「一緒に考えること」が重要と考えており、職員の意見を尊重することも重視している。介護にはこれが正解というものではなく、ただ利用者の笑顔が尺度になることを管理者はよく認識している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員が個々にキャリアアップできるよう支援しており、各職員がスキルアップすることで、やりがいや向上心を持って働くことができる環境づくりに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会が主催する研修には、希望する職員は必ず参加できるよう、シフトの調整を行っている。また、資格取得の為の支援として、スクーリング、研修が受講できるようなシフト調整、休暇を与えるなど、実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互研修に参加する事で、相手施設より学びえた意見や助言を参考にしたり、各施設間で行われる勉強会に参加したりすることで、より質の高い介護ができるよう努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスを開始する前に、利用者本人と十分に話し合える時間を作り、生活していく上で不安や要望などがあれば把握し、安心して頂けるように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の気持ちになり、耳を傾け十分にお話をする時間を設けることで、要望や不安、困っていることなどを把握し、安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何を必要としているか情報収集に努め、アセスメントを通じて当施設が適切かどうか判断している。また、他のサービス利用についても助言等行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活で必要な料理の下ごしらえや洗濯物の片付けなどのお手伝いをして頂くことで、職員の知らない工夫や知恵を教えて頂いている。また、職員は共に生活しているという意識を常に持ち、利用者の方々と共有できるような関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の思いやご家族との繋がりを重要視し、面接時は経験豊かな職員が対応することで両者の架け橋となれるよう努めている。また、家族の方からの相談には、誠心誠意をもって対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と電話連絡などを通じて、ご本人が安心して生活できるような環境づくりに努めている。また、お盆や正月、お祭りなど行事ごとに外出し、家族水入らずで楽しんで頂けるよう、支援している。	
			(外部評価) 地元の利用者は気軽に地域へ出向くことはできるが、遠方からの利用者や長期の利用者等には、昔の馴染みの人や場との関係は希薄になってくる。そのような利用者のために新しい馴染みの関係づくりに取り組んでいる。近隣に住宅が少ないため、隣接しているデイサービスや小規模な福祉施設の利用者と親しむ機会を作り、利用者の馴染みを増やすよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の言動や行動に常に目配り気配りし、声かけなどを通して支援を行ったり、レクリエーションに参加して頂いたりすることで、良い関係を保てるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、相談や支援が必要な方や家族の方との関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向を大切にし、その思いを把握できるよう努め、サービス担当者会議の場にて、情報の共有を行っている。本人からの把握が難しい時には、家族の意見を伺い、検討し、本人本位となるよう努めている。	
			(外部評価) 日々の何気ない会話から利用者の生活歴を聞き取り、利用者のイメージ像を深めるよう取り組んでいる。このことが介護サービス提供の基本であることを職員間で共有している。利用者がどのような状態であっても、思いや意向を表明できるよう、表情やしぐさでもくみ取れるように日々努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、担当のケアマネージャーから入居前より情報を収集し、スタッフ会において全職員がその情報を共有している。入居後も、本人や家族の方との談話を通じ、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしく過ごして頂けるよう、その人に合った生活ができるよう工夫している。また、これまでの生活と変化が生じた時には、全職員が情報を共有し合い、現状に合った生活をして頂けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) スタッフ会において、利用者の現状や課題を把握し、その都度介護計画の見直しに役立てている。また、家族の方にも近況報告を行う際にその意向を聞き、それを取り入れたプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、記録類の充実と利用者との対話時間との職員の業務バランスに苦慮している。介護記録に重点を置くと利用者とのゆっくり話す時間が減ってしまうので、対話時間に重きを置いている。記録の簡素化を図り、記載事項を行動、発言、様子にしぼり、ケアプランに関する記述は色を変えて記録する工夫をしている。介護計画の充実にも繋がり、良い取組みと言える。</p>	<p>計画作成担当者が代わり、なお介護記録の充実を図っているが、介護記録は介護計画とリンクをさせ、計画に沿った記録ができるような取組みを期待したい。読みやすい記載をしている職員もいるが、職員間で格差もあり、キャリアの差であることは明確であるが、資の向上にもつながるような取組みを期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別に対応表を作成し、日々の状態変化や情報を共有できるようにしている。また、水分摂取量や入浴状況、排泄状況などをチェックし、気づいた事を記入、これを基に日々のケアや介護計画の見直しに努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 定期受診の際には、基本的に家族の方に依頼しているが、都合がつかない場合などは看護師対応により行っている。例えば訪問歯科診療において、定期的に口腔内のケアを行っているが、異常が見られる場合は個別に対応し、一人ひとりが快適に過ごせるよう、環境づくりを行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 日々豊かな暮らしをして頂けるよう、絵手紙やマンドリン演奏に来て下さるボランティアの方々や民生委員、介護相談員の方々との交流を行い、楽しんで頂ける環境づくりに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期受診の際には、基本的に家族の方に依頼している。日 頃の情報提供を書面にてお渡しして主治医との連携を図っ ている。協力医との連携も密に行い、家族の了承の元に往 診をして頂き、適切な医療の支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 協力医の定期的な往診があり、利用者の健康管理をしてい るので、協力医をかかりつけ医としている利用者も多い。 看護師でもある管理者が医療機関とも連絡調整を行っている ので、家族等は利用者の健康管理の面で安心感がある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、体調変化時の報告は素早く 対応し、家人への状況報告、受診につなげている。看護師 は、職員からの状況変化の報告をいつでも受けれるよう24 時間体制で臨んでいる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には看護サマリーで情報提供を行っている。様子観 察をかねての訪問を行い、病院との連携を図っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に家人と終末期の方針について十分に話し合いを行 い、本人、家族の意向を第一に考え、施設で出来る範囲の 説明を行い文書として共有し、本人、家族の望まれる支援 をしている。各個人の終末期のケアの対応は主治医の指導 のもとに、家人の協力を得ながら、看護師が職員への助言 を行っている。</p> <p>(外部評価) 単独の福祉施設には医療的ケアの制限が多く、利用者の生 活の質や医療的安心感等を考慮すると、終末期には医療施 設の選択も視野に入れた支援を行っている。医療的側面の 見守りが必要な場合には、看護職員にいつでも連絡が取れ る体制を整えており、職員にも安心感がある。管理者は福 祉現場の立ち位置を明確にし、終末期ケアに取り組んでい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、随時急変時の対応等についての勉強会を実施し、意識づけを行っている。緊急時対応の定期的な研修に於いては、全職員が順番で参加をしていき自己研鑽に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難経路に障害物がないか確認した上で、施設内や施設周辺の整備、見回りを日々行っている。また、近くの事業所と連携した定期的な防災訓練により各職員に意識付けを行い、トリアージを取り入れたマニュアルの実践を図っている。運営推進会議を通じて、実際に地域の方々に参加して頂き、災害時における協力体制を築いている。	
			(外部評価) 災害時の避難訓練は回数を重ねており、地域住民との協力体制も取れてきている。運営推進会議で行っている避難訓練の反省会では、非常ベルの音量や非常食の備蓄のことが取り上げられており、真剣さが伝わってくる。つい慣れが出がちな訓練を、利用者の命を守る使命を再認識する機会としており、真摯に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの思いや人格を大切に、人生の先輩として敬意を払った言葉かけや対応を行っている。また、サービス担当者会議にて、情報を共有し、全職員が統一したケアできるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、同じことを何回も質問している利用者に丁寧に受け答えをしている。利用者一人ひとりの人格を尊重した関わりを他の利用者も見ている。職員の安心できる対応に、利用者の表情から自分も大切にされるといふ安堵感が伺える。職員の認知症ケアの質の高さが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話する際には、利用者よりも低い位置で視線を合わせた上で、笑顔でゆっくりと話をし、望んでいることを理解し、自己決定ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各利用者に対し、常に様子を観察することで、その人の希望を汲み取ることができるよう努めている。また、申し送りなどで情報を共有し、現時点での最良のケアを行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には、職員と共に服を選んで頂くことで、その人らしいおしゃれができるよう支援している。また、訪問理容の方による散髪を月に一度行っており、定期的に髪型を整えて頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器やテーブルを拭いたり、料理の下ごしらえなどお手伝いをして頂くことによって、共に食事を楽しめるよう支援している。 (外部評価) 食事前に職員は利用者と一緒に時間を過ごし、食事を工夫している。調理専任職員が配置され、職員はゆとりを持って利用者とは対話ができるよう努めている。利用者の生活の充実を絶えず考えている管理者ならではの工夫である。利用者の笑顔を見るため、いろいろな取組みを伺うことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者それぞれに食事量を調整し、食べる量が少ないときには、プリンや玉子豆腐など本人が好きなもので補っている。また、水分においても、少ないときには、本人が好きな飲み物を提供するなどし、支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけにより口腔ケアを行い、口腔内を清潔にして頂けるよう努めている。拒否された場合には、時間を置いたり、職員が交代するなどし、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) こまめな声かけを行い、各利用者に合わせたトイレ誘導にてトイレ内での排泄ができるよう支援している。また、夜間時は体調を見ながら、介助で対応できる場合はリズムに合わせたトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 夜間は就寝時間を重視したサービスを考え、利用者の状態に合わせてトイレ誘導やポータブルトイレ、尿取りパットなどを使い分けている。利用者の排泄の自立支援を柔軟に対応していることが分かる。排泄の自立とは何かを生活全般から眺め、その人らしさを優先させている支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 看護師より、体調変化や便秘の原因について説明を受けており、水分摂取量を把握する事で、十分に水分補給できるようにしている。また、利用者によっては、起床時、少し冷たい牛乳を提供するなどして便秘の解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調を最優先にした上で、入浴日を大まかに決定している。入浴の際には、楽しく快適で過ごせるよう、支援している。	
			(外部評価) 浴室は通常の家庭用の浴槽と2人介助も可能な広さの浴槽を設置している。事業所開設時からの「利用者の状態如何に関わらず、入浴を楽しんでもらいたい」との思いが伝わってくる。また、利用者により男性職員の介助を嫌がる場合は、同性介助に配慮して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の意向を聞き、その日の体調変化をしっかりと観察した上で、随時声かけをすることで、無理強いのない一人ひとりの生活リズムを大事にしたケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) いつでも職員がチェックできるよう、個人ファイル及び薬かごに薬の説明シートを添付している。特に重要な薬においては、スタッフ会で説明や指導を受け、全職員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者がそれぞれ楽しんだり、気分転換できるよう、また強みを活かした役割が持てるように支援している。日々張り合いや喜びを感じて頂けるよう、努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、声かけにて外気浴や散歩を楽しんで頂けるよう、支援している。また、買い物に行きたいという希望がある時には、随時近くのコンビニ等に外出している。また、地域のイベントなどにも積極的に参加して頂くことで、地域の方々との交流に努めている。	
			(外部評価) 開発地に立地し幹線道路から入った場所のため車の往来は少なく、日頃から外気浴や事業所周辺を散歩している。海を眺めることができる散歩道は職員も気に入っており、つい外出が多くなっているようである。散歩時は話をじっくり聞ける機会、利用者を理解する時間と捉えており、積極的な外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望されている利用者に関しては、職員が把握した上で、一定額持って頂き、自由に使えるよう支援している。残金が少なくなると、家人からお金を預かる事で、その補充を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居の際、自由に電話や手紙のやり取りができることを本人や家族に説明している。利用者が希望された場合には、電話をかけて談話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を折り紙で作ったり、季節が感じられる飾り付けを行ったりしている。また、利用者がホールで落ち着いて過ごせるような空間作りをしている。	
			(外部評価) ダイニングには大きなテーブルがあり、利用者全員が座ることができる。畳の小上がりのスペースは、イベントなどに有効活用している。中庭のデッキはリビングの延長のようになっており、天気の良い日はくつろげる空間となっている。季節に応じて飾りを変える等の工夫もしている。イスの間をゆっくり車いすで動けるゆとりのある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テラス等にベンチや日よけの為の parasol を設けて、利用者同士がコミュニケーションを取り易いよう努めている。自由にどの場所にも行き来できる空間作りを行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際に本人や家族と相談した上で、本人の馴染みの物を持参して頂くことで、快適に居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	
			(外部評価) 居室はベッドやタンスなどが備え付けられており、持ち込む家具の少ない利用者にも配慮している。居室には歩行や歩行器、車いす等利用者の移動手段により家具のレイアウトが異なっているが、どの部屋もすっきりとしている。昼食後に昼寝をしている利用者の顔には、自分の空間であるとの満足感が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室など、それぞれの場所が確認できるよう目線に合わせて掲示し、安心して生活して頂けるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社 ミキハウス
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の思いを汲み取ったうえで、その方の個性や心身の状況などを考慮し、出来るだけその人らしく生活できるよう、一人ひとりのペースに合わせた支援・ケアに努めている。不安や心配事を最小限にするために、一人ひとりの生活リズムを大事にすることで、笑顔の絶えない穏やかな生活を送って頂いていることなどが、その例である。また、自治会に加入し地域の行事に参加することで、広く当施設の存在を認識して頂き、災害時など緊急事態にも地域の方々に協力して頂ける環境づくりを行っている。一方、職員教育には施設側より全面的にバックアップし、各方面の研修に積極的に参加できる環境をつくり、各個人のレベルアップに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の利用者の平均年齢は高く、長期の利用者も多い。丁寧な支援が行われていることであり、利用者の顔が穏やかであることから確認することができる。利用者の高齢化に伴い、どうしても医療的支援が多くなる中、地域の社会資源を熟知している看護師でもある管理者は事業所として利用者が最良のサービスを選択できるようにしている。地域全体で利用者を支えようとする仕組みができています。開設10年の節目を迎え、管理者は新たに「利用者と共に事業所から地域に働きかけ、地域を賑やかにする」という目標を立てている。アクティブな活動は利用者の生きがいづくりにもつながり、とても楽しみのある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)

氏名 青野 洋子

評価完了日 平成 25 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) スタッフ全員の話し合いのもと決定し、事業所独自の理念に基づき、管理者並びに職員一同業務にあたっている。なお、いつでも確認できるよう事務所に掲示している。</p> <p>(外部評価) 管理者は介護業務の基盤づくりが理念であることを良く理解している。言葉のみを覚えるのではなく考え方を理解させるため、新人職員を研修には敢えて「理念」という言葉を使っていない。研修後に、言葉の奥行きを深めるために「理念」を説明して、今では職員間に理念の考え方が浸透している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 出来るだけ多くの利用者に地域の行事に参加して頂けるよう、環境づくりに努めている。また、絵手紙やマンドリン演奏などを通して、地域のボランティアの方々と交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 工業団地に隣接して開発された場所に位置するため、日常的に近隣住民との付き合いは難しい。地域と利用者の生活をつなげていくため、利用者と一緒に地域の季節行事に参加したり、事業所でイベントを開催したりしている。徐々にその輪は大きくなっており、地域ボランティアが事業所で催し物を開くまでに育っている。</p>	<p>管理者は、これまでは地域とは「交流」をしており、「つきあい」の域までは達していないとの思いがある。既存の行事に参加するだけでなく、事業所からの働きかけ、新たな関わりを創ることを模索している。事業所と利用者から近隣住民に積極的に働きかけ、相互の協力関係づくりや地域とのつながりが深まるような取組みを期待したい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々には、運営推進会議を通して認知症に関する勉強会に参加して頂くことで、さらなる認知症に対する理解や、支援の方法に対してなど、アドバイスをを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議において、利用者の近況報告や研修内容の報 告、行事報告など、その内容をよく吟味した上で行ってい る。広く地域住民の方々に参加を募り、情報を交換し合う ことにより、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、介護相談員、 市担当者等の参加を得て開催している。会議録からは参加 者に事業所を理解してもらいたいとの管理者の考えを読み 取ることができる。また、地域活動を幅広く行っている参 加者が多いため、利用者により有用な情報を収集したいとの 考えもあり、事業所の問題等も包み隠さず相談している。出 された意見を受け入れる事業所の姿勢が参加者に伝わって おり、率直な意見が聞ける会議となっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 行政とは運営推進会議などを通じ、情報交換を行ったり、 アドバイスを頂いたりしている。また、介護における困難 事例やわからないことなどについて相談している。</p> <p>(外部評価) 管理者は市担当者等を良き相談先として真摯な姿勢で対応 している。最新の介護保険制度の情報をもったり、新し い介護方法を学んだりするなど、管理者自身の知識に驕る ことなく、行政と連絡を密にしている。サービスの質の向 上のために、市担当者の意見を取り入れている姿勢は評価 することができる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間時は防犯として施錠を行ってはいるが、それ以外では 見守りを重視し、身体拘束をしないケアを実践している。</p> <p>(外部評価) キッチンからユニット全体を見渡すことができ、職員は調 理しながら利用者を見守ることができる。利用者と職員の 双方に安心感があり、利用者の落ち着きのある様子から 伺える。事業所では身体拘束をする原因が利用者の不安感 からくるものが多いと考えており、身体拘束ゼロになるに は安心できる生活の提供が不可欠で、特に職員の見守りに 力を入れている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に職員同士が、日常生活において虐待が起きないようにチェックし合い、その防止に努めている。また、外部研修やスタッフ会などを通して、全職員が高齢者虐待防止法などについて学ぶ機会を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員共に必要とされる方々に対し活用できるよう、外部研修やスタッフ会などを通して日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深めるための支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族の思いを十分に理解したうえで、契約にあたっての不安や疑問などを解消して頂けるように、しっかりと説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議において、利用者の家族の方に参加して頂けるようお声かけし、参加して頂いた際には要望や意見などを頂戴している。また、介護相談員をお招きし、利用者との何気ない会話の中にその思いを汲み取ることができるよう努めている。 (外部評価) 管理者は長期の利用者になると、家族等から意見を聞くことができにくくなっている。その対策として、家族等に事業所から相談を持ちかけることで、対話を増やすように努めている。管理者の姿を見て職員は、家族等の話を傾聴することの重要性を知り、家族等との対話に力を入れている。職員教育の面でも有用な取組みと言える。また、利用者からは介護相談員との話の中から要望を聞くこともある。出された意見は反映するように努めている。	長期の利用者となると、職員との対話時間が長くなり、生活歴の聞き取りに力を入れている等の理由から、職員の情報量が家族等を上回っている場合も多く、さらに利用者の意見や要望を反映できるような取組みを期待したい。また、家族等から話しやすくなるような取組みに加え、家族と共に利用者の生活を支えるという関係を構築することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 一月に3回あるスタッフ会で、管理者は職員が抱えているケアに対する意見や提案、改善点などを把握し、その解決や状況の改善などに努めている。 (外部評価) 管理者は職員と介護現場での話し合いの時間を大切にしている。利用者への具体的なサービス提供の方法を検討する場合は、管理者は職員間で「一緒に考えること」が重要と考えており、職員の意見を尊重することも重視している。介護にはこれが正解というものではなく、ただ利用者の笑顔が尺度になることを管理者はよく認識している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が個々にキャリアアップできるよう支援しており、各職員がスキルアップすることで、やりがいや向上心を持って働くことができる環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会が主催する研修には、希望する職員は必ず参加できるよう、シフトの調整を行っている。また、資格取得の為の支援として、スクーリング、研修が受講できるようなシフト調整、休暇を与えるなど、実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加する事で、相手施設より学びえた意見や助言を参考にしたり、各施設間で行われる勉強会に参加したりすることで、より質の高い介護ができるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する前に、利用者本人と十分に話が出来る時間を設け、これから生活していく上での要望や不安などについて把握し、安心をして頂けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方とも話をする時間を十分に設け、不安や要望を把握し、安心して頂けるような信頼の持てる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支援 を見極め、他のサービス利用も含めた対応 に努めている	(自己評価) 何を必要としているか情報収集に努め、アセスメントを通じて当施設が適切かどうか判断している。また、他のサービス利用についても助言等行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 料理の下ごしらえなどをして頂く中で、昔ながらの知恵や工夫を教えて頂いている。介護される側としてではなく、共に暮らしているという意識をもって頂けるような環境づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時など、ご本人の状況報告をしっかりと行い、ご本人とご家族との架け橋となるよう、経験豊かな職員が対応することで絆を大切にしている。また、家族の方からの相談には、誠心誠意をもって対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご家族や知人の方々と自由に連絡を取る環境にあり、ご本人がこれまで築かれてきた関係を大切にしている。また、季節ごとの行事には、家族の方々と外出して頂く等、楽しい時間を過ごして頂いている。 (外部評価) 地元の利用者は気軽に地域へ出向くことはできるが、遠方からの利用者や長期の利用者等には、昔の馴染みの人や場との関係は希薄になってくる。そのような利用者のために新しい馴染みの関係づくりに取り組んでいる。近隣に住宅が少ないため、隣接しているデイサービスや小規模な福祉施設の利用者と親しむ機会を作り、利用者の馴染みを増やすよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の言動・行動を常に把握し、良い関係を保てるよう、フォローしている。職員と利用者が共に楽しめるようなレクリエーションを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりが必要な方や家族の方には、サービス利用が終了しても相談や支援などを通して、関係を保てるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者とのコミュニケーションを心がけることで、その思いや意向の把握に努めている。その上で、サービス担当者会議にて情報を提供し、共有している。本人からの把握が困難な場合は、家族の方より情報を収集したり、意見を伺って本人本位となるよう、検討を行っている。 (外部評価) 日々の何気ない会話から利用者の生活歴を聞き取り、利用者のイメージ像を深めるよう取り組んでいる。このことが介護サービス提供の基本であることを職員間で共有している。利用者がどのような状態であっても、思いや意向を表明できるよう、表情やしぐさでもくみ取れるように日々努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人・家族などから情報を収集した上で、スタッフ会において全職員に情報の提供、共有を行っている。また、入居後や面接時にも、本人や家族との談話により情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしく過ごして頂けるよう、一人ひとり日々の過ごし方を工夫している。また、変化が生じた時には、職員が情報を共有し、現状に合った生活をして頂けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) スタッフ会において、各利用者の現状を把握し、介護計画の見直しを行っている。家族の方には、定期的に近況報告を行い、その意向を取り入れたプランニングに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、記録類の充実と利用者との対話時間との職員の業務バランスに苦慮している。介護記録に重点を置くと利用者とのゆっくり話す時間が減ってしまうので、対話時間に重きを置いている。記録の簡素化を図り、記載事項を行動、発言、様子にしぼり、ケアプランに関する記述は色を変えて記録する工夫をしている。介護計画の充実にも繋がりが、良い取組みと言える。</p>	<p>計画作成担当者が代わり、なお介護記録の充実を図っているが、介護記録は介護計画とリンクをさせ、計画に沿った記録ができるような取組みを期待したい。読みやすい記載をしている職員もいるが、職員間で格差もあり、キャリアの差であることは明確であるが、資の向上にもつながるような取組みを期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 各利用者について日々の状態や変化を把握し、個別記録に記入した上で、申し送り時にはその情報を共有できるよう努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 定期受診の際には、基本的に家族の方に依頼しているが、都合がつかない場合などは看護師対応により行っている。例えば訪問歯科診療において、定期的に口腔内のケアを行っているが、異常が見られる場合は個別に対応し、一人ひとりが快適に過ごせるよう、環境づくりを行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 日々豊かな暮らしをして頂けるよう、絵手紙やマンドリン演奏に来て下さるボランティアの方々や民生委員、介護相談員の方々との交流を行い、楽しんで頂ける環境づくりに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期受診の際には、基本的に家族の方に依頼している。日 頃の情報提供を書面にてお渡しして主治医との連携を図っ ている。協力医との連携も密に行い、家族の了承のもとに 往診をして頂き、適切な医療の支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診することができる。 協力医の定期的な往診があり、利用者の健康管理をしてい るので、協力医をかかりつけ医としている利用者も多い。 看護師でもある管理者が医療機関とも連絡調整を行っている ので、家族等は利用者の健康管理の面で安心感がある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、体調変化時の報告は素早く 対応し、家人への状況報告、受診につなげている。看護師 は、職員からの状況変化の報告をいつでも受けれるよう24 時間体制で臨んでいる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には看護サマリーで情報提供を行っている。様子観 察をかねての訪問を行い、病院との連携を図っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に家人と終末期の方針について十分に話し合いを行 い、本人・家族の意向を第一に考え、施設で出来る範囲の 説明を行い文書として共有し、本人・家族の望まれる支援 をしている。各個人の終末期のケアの対応は主治医の指導 のもとに、家人の協力を得ながら、看護師が職員への助言 を行っている。</p> <p>(外部評価) 単独の福祉施設には医療的ケアの制限が多く、利用者の生 活の質や医療的安心感等を考慮すると、終末期には医療施 設の選択も視野に入れた支援を行っている。医療的側面の 見守りが必要な場合には、看護職員にいつでも連絡が取れ る体制を整えており、職員にも安心感がある。管理者は福 祉現場の立ち位置を明確にし、終末期ケアに取り組んでい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、随時急変時の対応等についての勉強会を実施し、意識づけを行っている。緊急時対応の定期的な研修に於いては、順番で全職員が参加をしていき自己研鑽に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難経路に障害物がないか確認した上で、施設内や施設周辺の整備、見回りを日々行っている。また、近くの事業所と連携した定期的な防災訓練により各職員に意識付けを行い、トリアージを取り入れたマニュアルの実践を図っている。運営推進会議を通じて、実際に地域の方々に参加して頂き、災害時における協力体制を築いている。	
			(外部評価) 災害時の避難訓練は回数を重ねており、地域住民との協力体制も取れてきている。運営推進会議で行っている避難訓練の反省会では、非常ベルの音量や非常食の備蓄のことが取り上げられており、真剣さが伝わってくる。つい慣れが出がちな訓練を、利用者の命を守る使命を再認識する機会としており、真摯に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬意を忘れずに、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。また、サービス担当者会議を通じて、情報を共有し、各職員のケアが統一できるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、同じことを何回も質問している利用者に丁寧に受け答えをしている。利用者一人ひとりの人格を尊重した関わりを他の利用者も見ている。職員の安心できる対応に、利用者の表情から自分も大切にされるといふ安堵感が伺える。職員の認知症ケアの質の高さが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々会話をする際には、低い位置にて目線を合わせ、傾聴することで利用者の気持ちを汲み取り、その上で自己決定できるような環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) それまでの人生背景を考え、その人らしく過ごして頂けるよう努めるとともに、日常生活の中で様子観察を行い、申し送りなどを通して情報を共有し、最良のケアを行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一度訪問内容の方による散髪を行っており、希望される方を優先した上で、全ての利用者に髪型を楽しんで頂けるよう努めている。また、季節に合った服を何点かご用意し、その日の気分に合わせて選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下処理を手伝って頂きながら、その日のメニューについて話す時間を設けている。苦手な食材がある利用者は、代替の食材を提供することで、楽しく食事をして頂けるよう心がけている。 (外部評価) 食事前に職員は利用者とはゆっくりとした時間を過ごし、食事をする工夫をしている。調理専任職員が配置され、職員はゆとりを持って利用者とは対話を行うことができる。利用者の生活の充実を絶えず考えている管理者ならではの工夫である。利用者の笑顔を見るため、いろいろな取組みを伺うことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者に合わせた食事量にし、提供している。また体調により食事量が少ない時には、プリンや豆腐など本人が好む食品で代替を行っており、水分摂取量が少ない時も同様にカルピスなど本人好みの飲み物を提供したりすることで支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 唾液分泌等を目的とした食前のアイスマッサージを利用者によって行い、毎食後義歯洗浄やうがい等をして頂いている。拒否される場合などは、時間を置き、再度声かけをして口腔ケアを行う。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレ誘導においては、各利用者に合わせた対応をし、トイレ内での排泄及びその自立支援に努めている。夜間においても、職員の介助で利用できる方に対しては、声かけにてトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 夜間は就寝時間を重視したサービスを考え、利用者の状態に合わせてトイレ誘導やポータブルトイレ、尿取りパットなどを使い分けている。利用者の排泄の自立支援を柔軟に対応していることが分かる。排泄の自立とは何かを生活全般から眺め、その人らしさを優先させている支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 看護師より、体調変化や便秘の原因について説明を受けており、水分摂取量を把握する事で、十分に水分補給できるようにしている。また、利用者によっては、起床時、少し冷たい牛乳を提供するなどして便秘の解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望により、入浴時間を変更したり、入浴方法をシャワー浴にしたりしている。入浴時は、職員と談話をしながら、楽しんで頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 浴室は通常の家庭用の浴槽と2人介助も可能な広さの浴槽を設置している。事業所開設時からの「利用者の状態如何に関わらず、入浴を楽しんでもらいたい」との思いが伝わってくる。また、利用者により男性職員の介助を嫌がる場合は、同性介助に配慮して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調に合わせて、食事やおやつの時間を変更することで、一人ひとりの生活リズムを大事にし、自己決定のもと安心して眠れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) いつでも職員がチェックできるよう、個人ファイル及び薬かごに薬の説明シートを添付している。特に重要な薬においては、スタッフ会で説明や指導を受け、全職員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各利用者が楽しんで頂けるよう、気分転換や楽しみごとが出来る環境づくりに努めている。例えば、趣味のカラオケや俳句作りなどをして頂いている。また、日々張り合いや喜びをもって頂けるよう、支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には、外気浴や周辺の散歩など、本人の体調に合わせて行っている。ドライブにて季節の花の観賞に出かけたり、地域の行事に参加して頂いたり、積極的に支援し、地域の方々との交流に努めている。 (外部評価) 開発地に立地し幹線道路から入った場所のため車の往来は少なく、日頃から外気浴や事業所周辺を散歩している。海を眺めることができる散歩道は職員も気に入っており、つい外出が多くなっているようである。散歩時は話をじっくり聞ける機会、利用者を理解する時間と捉えており、積極的な外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望されている利用者に関しては、職員が把握した上で、一定額持って頂き、自由に使えるよう支援している。残金が少なくなると、家人からお金を預かる事で、その補充を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居の際、自由に電話や手紙のやり取りができることを本人や家族に説明している。利用者が希望された場合には、電話をかけて談話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の方々が作って下さった、季節を感じて頂ける飾りや折り紙、塗り絵などを展示して楽しんで頂いている。また、リビングで快適に過ごせるよう配慮し、不快や混乱が無きよう努めている。	
			(外部評価) ダイニングには大きなテーブルがあり、利用者全員が座ることができる。畳の小上がりのスペースは、イベントなどに有効活用している。中庭のデッキはリビングの延長のようになっており、天気の良い日はくつろげる空間となっている。季節に応じて飾りを変える等の工夫もしている。イスの間をゆっくり車いすで動けるゆとりのある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) どの場所にも自由に行き来できるよう環境整備し、利用者同士がコミュニケーションを取り易くしている。テラスなどにベンチを置いたり、ホールの畳スペースには、冬になるとコタツを設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際に本人や家族と相談した上で、本人の馴染みの物を持参して頂くことで、快適に居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	
			(外部評価) 居室はベッドやタンスなどが備え付けられており、持ち込む家具の少ない利用者にも配慮している。居室には歩行や歩行器、車いす等利用者の移動手段により家具のレイアウトが異なっているが、どの部屋もすっきりとしている。昼食後に昼寝をしている利用者の顔には、自分の空間であるとの満足感が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室など、それぞれの場所が確認できるよう目線に合わせて掲示し、安心して生活して頂けるよう工夫している。	